小野一彦 公約通信簿 前編　訂正箇所

表面　(2)インターバル速歩の効果について　右記・結果内(2箇所)

(2)インターバル速歩の効果について

経緯と発端

(由利本荘市在籍)
◉平成26年9月「サライ」9月号＝特集「日本一の長寿国・健康の秘訣は信州にあり」を読む。世界中から注目される健康運動＝「インターバル速歩」記事あり。
◉医学的証拠が確立されている運動療法であることから、由利本荘市でも取り入れたいと思い、考案した信州大医学部能勢教授を訪問。普及への指導・協力を受諾。
◉同年12月補正で予算化。講演会と体験会を開始。由利本荘市でも効果確認
◉平成27年12月。そうした過程で他の市町村で取り組んでいない研究テーマとしてインターバル速歩で体力が向上すれば認知機能の改善にも効果があるのではないかとの仮説があることを知り、再び同大を訪問。認知機能改善について同大学と由利本荘市で共同研究。＝軽度認知障害の方に改善が示唆された。

(秋田県復職)
◉平成30年度。秋田地域振興局長として推進。
◉振興局所属の保健所長(本庁健康技監兼務)とともに信州大学を訪問。
◉秋田地域振興局管内でも推進すること及び企業にも進めることとした。
◉能勢先生を招き、認知症疾患医療センター長、秋田大学高齢者医療先端研究センター長及び商工会議所副会頭、組合健保等関係者と意見交換の場設定。
◉実施に前向きな八郎潟町関係者と意見交換会実施。
◉秋田地域振興局の令和元年度重点事業として予算化＝インストラクター養成経費等予算化。秋田市の団体、潟上市の団体が資格取得。

◆令和元年9月県議会一般質問 ▶議会動画

質問　インターバル速歩を5か月続けると体力が20%向上し、高血圧、高血糖、高脂血症が20%改善する。この効果が医学的に証明されている。結果として医療費が20%削減できるという結果も出ている。選択肢の一つとして県も推奨すべきではないか。

知事・回答　運動メニューについては科学的根拠が確立したものの中から、市町村が効果に関する情報や活動の場を提供し、地域住民が自らに合ったものを選択することが、、運動を自主的・習慣的に継続するために重要であると考えている。
県としては県内で行われている優れた事例の情報共有を図るため各市町村の健康長寿推進員による活動発表会を行うほか、表彰をしている。こうした機会を積極的に創出し地域住民の自主的な取り組みにつなげたい。

議会中継動画
令和元年
9月議会一般質問
▶再生をクリック!

結果

由利本荘市から市民の力で広がるインターバル速歩
(令和元年6月)
◉八郎潟町健康まつりにてインターバル速歩の講演と体験会実施
◉小野視察参加
◉その際、由利本荘市民がインストラクターとして参加
◉令和3年度も実施。市民主体の健康づくり交流が拡大。
→由利本荘市から秋田県内への動きが実現。このほか、にかほ市、大潟村でも実施。

◆小野かつひこフェイスブックによるインターバル速歩・普及PR
(令和元年～現在まで)
◉コース紹介(雨天時倉庫・なかいち・本荘街中・矢島花立)や健康効果

◆健康の駅由利本荘フェスティバル視察・参加(前夜祭から交流)
◉インターバル速歩の効果・手法(遠隔・個別運動処方システム)紹介
(令和3年10月)
・インターバル速歩・実践大会2021in由利本荘市へ参加
・にかほ市、大潟村、八郎潟村、由利本荘市の市民と松本市の市民のオンライン参加で事例発表と実技で交流を深めた。

◆社会的孤立を防ぐ対策文献・取り組み事例調査・普及
◉千葉大学医学部亀田先生から社会的健康について聞き取り、市民公開セミナーを企画(コロナ禍により延期)
◉老人クラブ連合会大会(由利本荘市)にて「高齢者の転倒率・地域差の原因」言及。＝反応あり。今後のプロセスを検討。
◉芸術文化協会の踊り・歌の発表視察(身体表現主体・観客の反応はどうかの視点)
◉社交飲食業同業組合新春芸能の集い(別の公約再掲)

◆令和3年6月県議会総括審査 質問(社会的処方について)

質問　薬等の医学的処方に加え、その要因となっている社会的要因を取り除くことにより患者の健康を回復させていく社会的処方について、秋田県でも取組みがあるようだが、可能性について県としてどう捉えているか。

県回答　秋田県保険者協議会が事業主体となって国のモデル事業を提案して採択された。事業費1,400万円。県は保険者協議会の構成員として、歯科医との調整や企画書の作成などで関わってきた。モデル事業として地区で効果等を検証し、結果をみながら今後の対応を検討してまいりたい。

①

(誤)

◆健康の駅由利本荘フェスティバル視察・参加(前夜祭から交流)
◉インターバル速歩の効果・手法(遠隔・個別運動処方システム)紹介
(令和3年10月)
・インターバル速歩・実践大会2021in由利本荘市へ参加
・にかほ市、大潟村、~~八郎潟村~~、由利本荘市の市民と松本市の市民のオンライン参加で事例発表と実技で交流を深めた。

(正)

◆健康の駅由利本荘フェスティバル視察・参加(前夜祭から交流)
◉インターバル速歩の効果・手法(遠隔・個別運動処方システム)紹介
(令和3年10月)
・インターバル速歩・実践大会2021in由利本荘市へ参加
・にかほ市、大潟村、八郎潟町、由利本荘市の市民と松本市の市民のオンライン参加で事例発表と実技で交流を深めた。

(誤)八郎潟村　(正)八郎潟町

②

(誤)

秋田県保険者協議会が事業主体となって国のモデル事業を提案して採択された。事業費は1,400万円。県は保険者協議会の構成員として、~~歯科医~~との調整や企画書の作成などで関わってきた。モデル事業として地区で効果等を検証し、結果をみながら今後の対応を検討してまいりたい。

(正)

秋田県保険者協議会が事業主体となって国のモデル事業を提案して採択された。事業費は1,400万円。県は保険者協議会の構成員として、医師会との調整や企画書の作成などで関わってきた。モデル事業として地区で効果等を検証し、結果をみながら今後の対応を検討してまいりたい。

(誤)歯科医　(正)医師会